

# 通常・二毛作日本晴の刈取予測

～ 収穫は三連休明け 20日頃から ～

収穫目安は出穂45日後

収穫直前までの間断通水で収量UPを!

出穂期からの積算 9月10日現在

出穂月日	積算温度(日本晴) 1150℃目安
8月5日	1001.5℃
8月10日	856.4℃
8月15日	718.3℃

J A 越前たけふでは中長期的に日本晴の生産販売を強化する「日本晴復活プロジェクト」を実践しており、管内の生産者は514名、530㌦の面積でこの作付がされています。次年度以降も更なる面積拡大を計画する中、収穫直前までの水管理と適期刈取りに努めてください。

□ 日本晴の特徴 □

最高分げつ数が多く、茎数が過剰になりやすい  
 成熟期まで葉色が濃く推移する  
 耐倒伏性が高い(稈長はコシヒカリよりも短め)  
 登熟期間は積算温度で1150℃  
 出穂後の目安日数で45日間



日本晴 登熟状況調査結果 (9月11日現在)

栽培体系	集落名	移植・播種日	出穂日	籾水分	青籾残存率	収穫開始時期	
移植	慣行	中新庄	5月15日	8月10日	28.0%	32.7%	9月20日頃
		北小山	5月18日	8月15日	28.9%	43.7%	9月23日頃
		上野	5月5日	8月8日	28.6%	31.3%	9月21日頃
特栽④	氷坂	5月12日	8月10日	28.6%	38.3%	9月21日頃	
直播	慣行	平林	4月28日	8月10日	28.0%	36.8%	9月20日頃
	特栽④	高木	5月1日	8月8日	28.1%	35.8%	9月20日頃
移植	二毛作	四郎丸	6月12日	8月24日	30%以上	100.0%	10月上旬
		小野谷	6月6日	8月21日	30%以上	97.7%	

網かけは二毛作 日本晴刈取適期籾水分25% 1日あたり減水分(平坦地0.4%)で算定

日本晴の田植え時期は5月5日～18日、二毛作は6月10日前後となっており、収穫時期も間延びすると思われますが、概ね三連休明け20日頃から、二毛作は10月上旬から収穫期に入ると予想されます。

コシヒカリやあきさかりと比べると一穂着粒数が少なく、登熟歩合を高める必要があるため、収穫直前まで間断通水を継続しながら、品質の向上、屑米率の低下に努めてください。とくに、水尻(排水)側の土壌が白く乾き、写真のように大きくヒビ割れている圃場が多くなっています。日本晴は登熟期間が長く、調査したどの圃場も地固めはできているため、出穂後38～40日間(9月17日頃)までの間断通水で収量UPを目指しましょう。



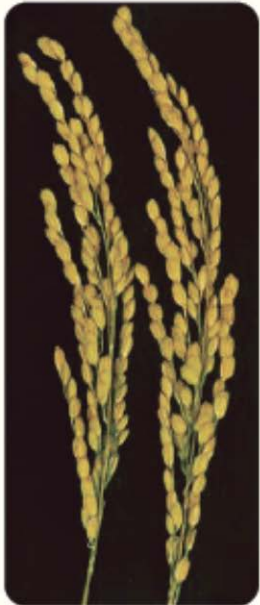





排水側の水管理状況

あきさかり同様

茎葉色は濃いが籾はかなり黄化

見た目で判断しない!

# 日本晴 収穫適期の判断と正確な乾燥・調製！

		
<b>未熟</b>	<b>適期</b>	<b>過熟</b>
		
未熟粒・青米の増加 ↓ 屑米の増加による品質と収量の低下	整粒歩合の安定 食味の低下防止	着色粒・胴割れ粒の増加 ↓ 品質と食味の低下

☆ 収穫適期の判断 ☆	☆ 乾燥時の注意点 ☆	☆ 粳摺り・調製時の注意点 ☆
1. 積算温度による推測 出穂期以降の積算温度 990℃を目安に。 2. 粳水分による判断 刈取開始期の粳水分 25% 3. 青粳残存率による判断 1穂あたりの青粳割合 10%～15%	1. 時間当たりの乾燥水分は0.8%以内。 ※急激な乾燥は胴割れの原因になります！ 2. 仕上げ水分は15.0%を目標に。	1. 明るい場所での粳摺り・調製作業を心がける。 2. 粳摺りロールの点検を。 ※片減り、ムラ減りしたロールは肌ずれなどの原因に！ 3. 仕上げ整粒歩合 75%以上を目標に。